

4/17 系報

国連人権理事会の環境担当などの3人の特別報告者は15日、日本政府による東京電力福島第1原発の汚染水海洋放出の決定に「深い憂慮」を表明しました。

ボイド特別報告者（人権と環境担当）らは、100万リットルの汚染水の海洋放出は、「日本内外の人々の人権を脅かす」と批判。漁業関係者をはじめとする地元福島の人々の懸念の声をよそに決定

## 福島第1原発の汚染水放出

# 国連特別報告者「深い憂慮」

が行われたことにも触れ、「専門家が海洋放出以外の選択肢もあると指摘しており、今回の決定には失望させられた」と述べました。

日本政府に対し、海洋環境を保護するなどの「国際的義務の順守」を求めました。

特別報告者はほかに、オレシヤナ（人権と有害物質担当）、ファクリ（食料の権利担当）の両氏です。